

目指す学校像	すべての子どもが笑顔(Well-being)で通う学校 保護者・教職員・地域の方もみんなが笑顔(Well-being)になる学校
--------	--

重点目標	1 子どもが主体的に学ぶ「個別最適な学び」の実現 2 実践的な安全教育の実施と安心できる居場所づくり 3 地域とともにある学校づくりの推進 4 教職員一人ひとりのキャリアに応じた成長とライフワークバランスのよい職場環境づくり
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価		実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 主体的な学び	<現状> ○市児童アンケート(市学調)「学習の分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげたか」のA回答は42.8%(R5:5,6年生)「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか」は45.8%(R5:5,6年生)。 ▼本校のタブレット型PCの利用頻度は、全学年とも市の平均に届いていない。(R5.9調査) <課題> ◎理解度の異なるすべての児童が、意欲をもって主体的に取り組む授業づくりのために、従来どおり、学習方法を工夫するとともに、学習ボランティアの協力体制やAIの利用等について研究していく必要がある。 ◎家庭内での学習の在り方(主体性)やタブレット型PC利用の際の情報モラルの育成について、保護者と連携する必要がある。	子どもが主体的に学ぶ「個別最適な学び」の場づくり	○タブレット型PCを効果的に利活用する。また、そのための教職員研修を行う。 ○児童のメタ認知を促し、調整力を育てるような授業を実践する。(「学習のめあて」の明示と「振り返り活動」の工夫) ○市学習状況調査(R5.1月)及び全国学力状況調査結果(R6.4月)を全教員で分析し、各学年の課題に即した授業を行う。	○市児童アンケート「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」(ともに5,6年生)のA回答が昨年度を上回ったか。 ○「令和6年度学力向上ポートフォリオ(針ヶ谷小)」は概ね達成できたか。				
		豊かな感性を育てるための読書活動	○読書時間と経験を確保する。(週1度の朝読書、子ども読書の日、読書ボランティア) ○児童図書委員会の活動を児童主体で行う。 ○保護者への啓発活動を行う。(児童と司書による図書館だより、親子読書)	○市学習状況調査において、読書週間に関する質問「読書は好きか」「読む時間数」「図書館の利用頻度」に肯定的な回答数が、市の平均より上回ったか。				
2 安心・安全	<現状> ▼校内で工事が行われている。(R7年度まで) ▼自然災害や異常気象、不審者情報等は毎年ある。 ▼令和5年度に学区内での小学生の交通事故が1件あった。 ○PTAや地域の協力がある。(2年生保護者による地域パトロール、自治会等による登下校の見守り、育成会による補導パトロール) <課題> ◎想定を超える災害が起り得る状況において、様々な防災教育が必要である。 ◎児童が安心して登校できるような相談体制や指導体制をつくる必要がある。	実践的な防災教育の実施	○交通安全指導及び各避難訓練では、児童自身が思考する訓練を実施する。 ○避難訓練では「想定外」をなくすために、あらゆる危険を想定して見直す。 ○不審者発見のための来校者声掛けを積極的に行う。	○各避難訓練で児童の思考場面があったか。また、各訓練の目標は達成できたか。 ○年度末までに、次年度に向けた各種訓練の見直し・計画ができたか。				
		安心できる居場所づくり	○「生命(いのち)の安全教育」を全学年で行う。また、5年理科で助産師等による授業を行い、地域学校保健委員会のテーマとする。 ○Sola(そら)ルームを開設し、円滑に運用する。 ○いじめ対策委員会、民生委員等との連絡会等を活用し、地域の見守り活動と連携する。	○市児童アンケート「学校に行くのは楽しい」に肯定的に回答する児童が95%以上。 ○地域学校保健委員会の事後アンケート結果で成果を確かめる。 ○教育相談体制について、学校評価(保護者(R5:93%)・教職員(R5:89%))は肯定的か。				
3 地域とともにある学校	<現状> ○学校と地域の結びつきが深まるよう、学校運営協議会で「コミュニティ・スクール成長プラン」を作成した。(R5) ○育成会主催「ふれあいまつり」は地域・保護者(PTA)・学校との協働で行っている。 ▼R4年度から始めた「あいさつの花運動」がR5年度は校外へ広められなかった。 <課題> ◎学校行事や各種おたより・学校Webページを活用し、積極的に教育活動を公開していく。 ◎コロナ禍が過ぎ、学校と地域との交流の在り方について模索している。	児童による地域活動への参加	○学年ごとの地域学習を計画的に行う。(1年:通学路学習、2年:学区探検、3年:地域の施設) ○地域行事への参加を促す(育成会行事、夏まつり、地域施設の催し等) ○地域とともに取り組む「あいさつの花運動」	○市学習状況調査の児童アンケートNo24「地域の行事に参加しているか(3~4年生)」No28「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか(全学年)」の肯定的回答が昨年度を上回ったか。				
		保護者や地域と連携する教育活動	○保護者や地域の方にボランティアやゲストティーチャーの協力を呼び掛ける(親子清掃、学習ボラ等) ○地域の方との会食を年3回行う。 ○積極的に情報発信する(学校Webページ、授業公開) ○学校運営協議会の委員を拡充し、充実させた熟議の中で、地域の課題について話し合う。	○保護者・地域とともに「あいさつ運動」を協働できたか。 ○保護者アンケートで「地域保護者との連携」A評価が昨年度(33.8%)以上か。 ○保護者アンケートで「あいさつに関する質問」A評価が昨年度(25.5%)以上か。				
4 教職員の資質向上	<現状> ○教育職員免許法が一部改正され「校長との対話による受講奨励」が始まった(R5~)。 ○R5年4月~12月までの「勤務時間外の在校時間」は、一人当たり月35.1時間となり、R4年同時期より9.7時間短縮した。 ▼授業力、在校時間、共に教職員間で差がある <課題> ◎時代に求められている「新しい教え方・働き方」について教員一人ひとりが意識しなくてはならない。 ◎全ての教職員の勤務時間外在校時間が、月45時間、年間360時間を超えないようにしたい。	「学び続ける教師」を具現化する研修体制の確立	○年次研修(法定研修)をベースにし、キャリアの異なる教員が学び合える場を設ける。 ○教職員一人ひとりが「一人1テーマ」を掲げ、学校課題研修に取り組む。	○授業を担当する教員26人が、メンター又はメンティとして学べたか。 ○教員一人ひとりが立てた学校課題研修の目標を達成できたか。				
		働き方改革	○業務を円滑に進めるために「積極的な生徒指導」「問題の早期発見・適切対応」等に努める。 ○月2回のノ残業デーを徹底する。 ○学校行事をいっそう精選する。	○4月~12月までの「勤務時間外の在校時間」が一人当たり月30時間以内になったか。教職員で差はないか。				

